

# 令和三年度 大阪国税局長賞

## 税金からの恩返し

奈良市立春日中学校 三年 本田 花梨

私は税金について今までマイナスなイメージだけを持っていた。商品を買う際には消費税を払わないといけない。それは5%から8%、8%から10%と年々上がっていった。なぜ商品を買うだけなのにここまでたくさんの消費税を払わないといけないのか私は疑問に思い調べてみることにした。その時ある1つの動画に出会った。そこには税金がなくなった世界についてえがかれていた。私達が普段あたり前のように通っている学校は椅子や机が全部自己負担となりお金持ちの人しか通えなくなった。警察や消防車はどれだけ今が危険な状態であっても高額なお金を払わないと呼ぶことができず誰も呼ぶ人はいなくなった。そうして町はやりたい放題になっていった。道は国のものではなく個人のものになったことから通る際にお金がいる。病院も保険が出ないため医療を受けられる人はほんのわずかとなった。私はこんな町を見てとても残酷だと思いありえないと感じていた。しかし現実は違った。このような世界は数多く存在していたのだ。

西アフリカのガーナに住むアペティとその弟のコフィは11歳と6歳という幼なさで働かなければならなかった。母が病気で倒れ田舎に帰されてからは朝から晩まで休む暇もなく兄弟だけで必死に働いた。そのお金は母への仕送りと自分達が今日食べるご飯で全てなくなってしまう。生きていくことで精一杯、学校には通えていない。でもそんな二人には夢があった。弟はこんなことを言った。「僕学校に通って学びたい。そしたらお金持ちになってお母さんを助けてあげたい。」それに対して兄は弟だけでも学校に通わせてあげたいと述べていた。私はその言葉を聞いて一人一人が夢を持ち学ぶことができる、そんな学校に通えることがどれだけ幸せで贅沢なんだと気づくことができた。勉強は難しいし行きたくないと思っていた気持ちが恥ずかしくなった。

税金を払いたくないなと思う人はきっといるだろう。でもあたり前のことをあたり前のようにできる、そんな日常は税金があるからこそだと思う。その中で私達が忘れてはいけないことはあたり前のように過ごせている日常が幸せだということ、そしてその日常に感謝の気持ちを持つということだ。私は一人では生きていけないよという言葉を目にしたことがある。これは必ず誰かに支えられて生きているということだ。でも支えられているだけではない、自分自身が誰かを支えているとも言えるだろう。これは税金とも関係していて他の人が税金を払うことによって自分が助けられることもあるし逆に自分が税金を払うことによって他の誰かを支えている場合もある。つまり私達は知らない間に助け合いをしているということだ。これはとても素晴らしいことだと思う。だから私は一人でも多くの方が幸せになれる為に税金を払いたい。